

2017年度（第20期）PHD協会 国内研修生(インターン)募集!!



海外からの研修生とともに学び、
アジア・南太平洋の草の根の人々と共に生きるための活動に関わりませんか？

POINT

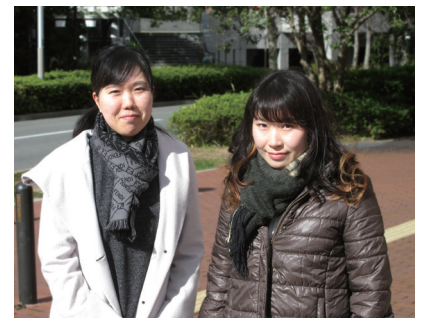
- ・ 研修期間や日数によって、夏のスタディツアー（ネパール、ミャンマー、インドネシアのいずれか）の航空券が支給されます。
- ・ 適正により、インドネシア・スマトラ島の小学校で日本語教師ボランティアを体験できます。
（国内研修生2名のうち1名のみ、期間は応相談）
- ・ 希望者は海外研修生と一緒に東日本・西日本研修旅行への同行ができます。

- 【募集人員】 1名（広報啓発担当）
- 【研修地】 原則として当協会事務所。交通費支給（上限有）。海外研修生の研修現場（主に兵庫県内各地）、外部での研修プログラムへの参加もあります。
- 【期間】 2017年5月より2018年3月までの間で、週3日以上10:00～18:00を原則とする。
期間・日数などの詳細は面談の上決定。
- 【選考方法】 一次：書類選考（履歴書・志望動機文） 二次：面接
- 【募集締切】 ※随時募集、決まり次第終了。

■ 広報・啓発担当の国内研修生

NGO運営業務に興味がある！海外研修生と一緒に学びたい！という方

広報物の制作やSNSの管理、ボランティア対応、支援者サービスなどの広報・啓発活動を中心に運営業務補佐を担当していただきます。また、海外研修生の研修先へ同行し、広報担当としてその様子を伝えてもらいます。その他、フェアトレード部門（タイの草木染め手織り布など）のサポート業務もお願いする予定です。





夏のスタディツアー（ミャンマー）



神戸の事務所の様子



大阪・釜ヶ崎（あいりん地区）での研修

国内研修生をやってみて ～第19期国内研修生より

■ 大倉 梨花さん

（大学院で国際協力について学んだ後、研修担当国内研修生に）



海外からの研修生たちは自分の村や国のことを自信を持って話します。翻って、現在の自身の生活や日本社会について、私は自信をもって語れるのかと考えさせられます。夏にはインドネシアに行く機会があり、元研修生一人ひとりが日本で学んだことを活かしている姿を見て、PHDが行っている活動の重要性を実感しました。また、研修指導者やPHDに関わる方々と出会い、様々な生き方や人生に触れることができました。国内研修生として活動することは、国際協力について学べるだけでなく、日本のことや私自身の生活、生き方について考えるきっかけを与えてくれました。

■ 加藤 志歩さん

（大学4年生。スタディツアー参加後、広報・啓発担当国内研修生に）



昨年のPHDスタディツアーに参加し、自分と年齢の近い研修生たちが熱心に村のために活動している姿を見ました。彼らから多くの刺激を受け、その取り組みをもっと知りたいと思い、PHD国内研修生に応募しました。今年一年、海外からの研修生達と過ごしたことで、新しい発見や彼らから学ぶことが多くありました。そしてNGOの運営や、NGOで働くということを経験することができました。PHDはたくさんの思いを持った人々に支えられている団体です。研修指導者の方やボランティアの皆さんなど、多くの人とのお出会いが、自分を人間的に成長させてくれます。

担当職員より

■ 広報・啓発担当 八木 純二



PHD国内研修生は、多くの場所に足を運び、様々な人々と出会うことができる経験の宝庫です。広報・啓発担当の研修生には、広報担当として海外研修生の研修先に同行していただきます。また、広報物の制作、SNSの管理や支援者サービスなどの業務を中心に運営全般に関わるので、NGOの仕事とはいかなるものか経験できます。

この一年での出会いと縁が、きっとあなたの次の一歩につながると思います。好奇心旺盛な方を待っています！



2017年度 PHD研修生

デフィさん（左 インドネシア出身）
ミスラさん（中央 ネパール出身）
タンタンミエさん（右 ミャンマー出身）

PHD協会とは

PHD協会は、ネパールなどで1962年から医療活動に従事した岩村昇医師が自らの経験と反省をふまえ、「物」「金」中心の一時的援助を超えた草の根レベルの人材交流・育成を提唱し、1981年に設立した国際協力の団体です。アジア・南太平洋の村の青年を研修生として日本に招き、農業、裁縫、保健衛生といった内容の研修を行い、帰国後もフォローアップを行うことを通じて、草の根の

人々による村づくりと生活向上に協力しています。今までに、インドネシア、ネパール、ミャンマーなど11カ国から約300名の草の根の人々を受け入れてきました。日本の人々もアジア・南太平洋の人々との交流を通して学ぶことはたくさんあります。そこから、毎日の生活を問い直し、草の根の人々と共に生きることのできる生活を、足元から実践するための活動を続けています。